

大槌町勢要覧

く お だ  
じ お け  
け つ ど  
な ち  
い は





## 新しい人を、 新しいおおつちをつくる

大槌町長  
平野 公三



東日本大震災津波から9年が経過しようとしています。改めて犠牲となられた皆様に心より哀悼の意を表します。

これまで、町民の皆様と一丸となって進めてまいりました復興事業も最終段階を迎え、令和元年11月に赤浜地区の災害公営住宅7戸が完成したことにより、当町で計画した876戸全ての災害公営住宅が供用開始となりました。また、土地区画整理事業、防災集団移転促進事業及び漁業集落防災機能強化事業による1401宅地についても、整備が完了しております。東日本大震災津波で流出した公共施設についても赤浜地区公民館・復興まちづくり支援施設の供用開始をもって全ての施設が復旧しました。大槌町の復興事業は、平成から令和へと時代が変わり、町政施行130周年の年に大きな節目を迎えたといえます。

今後につきましては、災害公営住宅の一般化及び戸建住宅の払い下げ、防集団地における空き区画の一般分譲化、防集跡地の利活用など、次のステップに向けた準備を遅滞なく進めるとともに、コミュニティの再生や「心の復興」に向けた取り組みを継続してまいります。

また、令和元年4月から大槌町の復興後10年先を見据えた「第9次大槌町総合計画」がスタートし、基本理念である「魅力ある人を育て、新しい価値を創造し続けるまち大槌」を目指し、邁進してまいります。

これまで、大槌町の復興は、日本国内のみならず世界中の様々な方面からのご支援をいただきながら、町民の皆様、町議会、国や県、関係機関・団体との協力・連携により進んでまいりました。皆様への感謝を忘れることなく、一日も早い復興まちづくりの完遂と「魅力ある人を育て、新しい価値を創造し続けるまち大槌」に向け努めて参ります。

2019年11月6日  
城山から見た大槌の海とまち



# くお おおつち は い な い 。 く じ け な い 。

あの日がうそのように  
海はいまもここにある  
街はいまもここにある。  
そして、わたしたちはここにいる。  
お昼の時報のメロディが  
青い空に広がっていく。  
それは未来へのファンファーレ。  
おおつちは、くじけない  
みんなをのせて、未来へ進む。

<b>CONTENTS</b>		<b>目次</b>	
町長あいさつ	3	おおつち未来航路	10
〈特集〉		産業振興／福祉／学び	
未来へ進め、		社会基盤／協働／復興	
新しいおおつち	4	おおつちマップ	20
		おおつち年表	22
		おおつちの行政	18





7



8

5.9月に行われる大槌祭り。 6.震災前の大槌町の模型。文化交流センターおしゃっちに展示してあります。 7.NHK人形劇「ひょっこりひょうたん島」キャラクター、「ドンガバチョ」と一緒に 8.大槌駅からみた街並みとNHK人形劇「ひょっこりひょうたん島」キャラクターの「ハカセ」



6



5

# 未来へ進め、新しいおおつち



1



2

## 2011-2019 震災から復興へ、私たちの歩み

町のかさ上げを平成30年度に完了し、大槌町は本格的なまちづくりをスタートさせました。東日本大震災で分断された鉄道は、東日本旅客鉄道JR山田線から三陸鉄道に移管され、平成31年3月23日に全線開通。三陸沿岸を縦貫する鉄道の計画は、もともと明治の三陸大津波のときに持ち上がった計画で、百年の大計の実現でもありました。また、それから約4か月後の令和元年6月22日三陸復興道路、釜石山田道路が全線開通し、大槌インターチェンジで式典が開かれ、利便性の高い交通ネットワークの基盤となりました。

新しい大槌のまちづくりのために、町民アンケートをとり、対話・議論・検証を重ね、2019（2028年度）の第9次大槌町総合計画を作成しました。産業を復興し、町民所得を向上させ、福祉や教育の充実に、町民と行政が協働で取り組んでいきます。基本理念「魅力ある人を育て新しい価値を創造し続けるまち大槌」を掲げ、安心して暮らしていただける魅力あふれる未来へと進みます。

4



3

1.大槌高等学校の魅力化推進員と先生 2.三陸沿岸道路(釜石北IC~大槌IC)開通式 3.町内幼稚園・保育園児が参加したたごうコンサート 4.図書館や展示室を有する文化交流センターおしゃっち

人を育て、新しいおおつちの価値を創造していく。町民と行政が協働で、まえよりもっといいおおつちをつくるために歩いています。

4

5



# 3・11の信じがたい光景から、私たちはスタートした。

大津波でまちが消えた。それでも、くじけるなと前へ

2011  
平成23年3月11日  
東日本大震災津波発生  
まちは壊滅的状况

14時46分マグニチュード9.0、震度6弱(最大震度7)の地震発生。死者・行方不明者は1286人。当時の人口の約一割。津波被害のうえ火災も起こり、暗い夜に赤い炎だけが燃え盛り多くの町民を不安にさせた。高台にあった城山公園体育館や学校などが避難所となった。電話も携帯も使えない日々が続いた。



平成23年4月25日  
仮庁舎が開所、行政本稼働へ

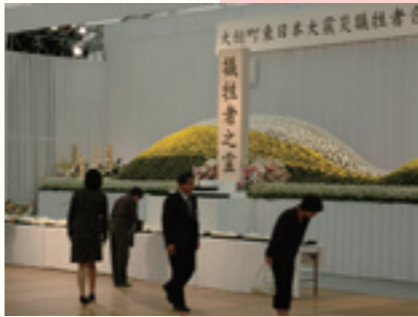
中央公民館前に対策本部を置いていたが、大槌小学校校庭にプレハブの仮庁舎が開所した。

平成23年5月4日

吉里吉里地区に町内初の仮設住宅  
吉里吉里中学校のグラウンドに仮設住宅が完成し、入居開始となった。2012年7月の段階では2106戸建設された。

平成23年6月18日・19日

東日本大震災犠牲者合同慰霊祭開催  
大槌中学校の校庭に白テントを張った特設会場に、延べ5000人以上が参列し、故人を偲んだ。



平成23年7月26日  
自衛隊が撤収

震災後の町の復旧活動に尽力した自衛隊が撤収となった。自衛隊派遣撤退感謝セレモニーが開催され、多くの町民が集まった。



平成23年8月1日  
まちの時報が復活

多くのミュージシャンが避難所にエールを届けてくれた。その一人、世界的なジャズピアニスト小曾根真さんが演奏する「ひよっこりひょうたん島」のテーマ曲が、町の時報となった。震災前から屋の時報として慣れ親しんでいた同曲は、前に進む町民を鼓舞し続けている。

平成23年10月10日  
町地域復興協議会始まる

行政だけではなく町民の声を復興計画に盛り込むため、町内10地域に地域復興協議会を立ち上げ、未来像を議論してもらう場とした。会場となった城山公園体育館には約500人の町民が参加した。



平成23年11月7日  
魚市場再開

建物や製氷施設の修復が終わり約8か月ぶりに営業再開。金石市の漁船により、サケやサバなど約20トンが水揚げされた。

平成23年12月17日

北小復興きらり商店街オープン  
オープンし、昔からの店舗が中心だったが、復興食堂同様、工事の人達に温かいものを出すための飲食店も入っていた。買うこと、食えることが

## 1年目

ウニ、カツオ、サケ：わたしたちの海が戻り始めた

平成24年3月1日  
新おおつち漁協発足

町の基幹産業である漁業の復活を目指し、3月に新おおつち漁協が発足。9月には、ソウダガツオやサバが水揚げされ、総水揚げ量は3トン以上。以前にくらべれば少ない量だが、支援に支えられこの日を迎えた漁師たちの喜びは大きかった。大漁旗を掲げた漁船が漁港に戻ると、浜は活気づいた。

支援につながるという意識が国内でも認識され、両施設も視察や観光のつど、多くの人が寄ってくれた。



平成23年12月22日  
ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」復活

多くの町民に親しまれている商業複合施設が被災し営業を停止していたが、町民の復活を要望する嘆願書に応え、新規店舗や銀行などが加わってリニューアルした。

平成24年8月6日

旧校舎活用の町役場で業務再開

1階が浸水し火災も発生した旧大槌小学校の校舎を改装。町役場として活用し、業務を再開しました。

平成24年12月13日  
蓬萊島の新灯台点灯式

蓬萊島に、公募で決まった町民による新しいデザインの灯台に光がともった。真っ赤な新灯台は以前の7.4メートルより高い11メートルの高さで、ろうそくと太陽、砂時計を模したデザイン。



平成24年12月15日  
大槌名物・鮭のつかみ取り復活

「北小復興きらり商店街」を会場に開催された「おおつち鮭帰願祭」で、鮭のつかみ取りが復活。会場は、鮭をつかもうとする子どもたちの声で活気づいた。

## 2年目

未来への体制づくり  
まちづくりのスピードをあげた

平成25年4月4日  
新大槌小学校開校

2年後には大槌中学校との小中一貫教育へ移行を予定し、仮設校舎で共に学んでいた町立の大槌小学校、安渡小学校、赤浜小学校、大槌北小学校の旧4校を大槌小学校に統合した。

平成25年8月30日  
大ケ口地区と吉里吉里地区で災害公営住宅入居開始

町内第1号となる災害公営住宅の入居が開始。大ケ口地区の災害公営住宅には、大槌町産の木材が使用されています。



平成23年8月11日  
全避難所を閉鎖

大槌高校など、避難所のすべてが閉鎖され、本来の役割に戻ることに。平成23年9月20日

仮設校舎で授業開始

大槌小中学校の仮設校舎が、大槌ふれあい運動公園の多目的広場に建てられた。小学校4校と、中学校1校の学び舎となった。

平成23年9月24日

「大槌まつり」を小鎧神社で開催

震災前から続く大槌まつり。被災から半年で止めることなく開催にこぎつけた。



平成23年10月5日  
「広報おおつち」再開

9月に行われた震災後初の「大槌まつり」を表紙に、「災害対策本部情報おおつち」から、通常版の「広報おおつち」が発行再開。



物質的な復興から  
こころと文化の復興へ

### 3年目

2014  
平成26年7月26日  
吉里吉里海開き

吉里吉里では震災後初の海開きが  
行われた。大槌の海が少しずつもどっ  
てきた。



平成26年8月8日  
蓬萊島を町の文化財に指定

弁財天も祀られる蓬萊島は江戸時  
代の頃より風景地として親しまれて  
きた。新たに記念物として、町の文化  
財に指定された。浸水し、灯台なども  
流されたが、弁天様は堂ごと残り、復  
興のシンボルとして、町民の心のより  
どころになっている。

子どもという未来を育む  
本格的に小中一貫校を  
スタート

### 4年目

2015  
平成27年1月6日

震災後も多くの支援を続けてくれ  
た、米国カリフォルニア州フォートブ  
ラッグ市との姉妹都市交流を再開。

平成27年3月18日  
町内小学校で最後の卒業式  
大槌小学校、吉里吉里小学校で卒  
業式が行われた。移行前の「小学校」  
として最後の行事となった。

平成27年7月4日  
寺野白澤団地でまちびらき式

一部住宅地が完成し、宅地引渡し  
と災害公営住宅の入居を迎え、入居  
予定者や地域住民などが新しい町の



スタートを祝った。式典では、くす玉割り  
や記念植樹、餅まきが行われ、白澤鹿子  
踊りが披露された。

### 5年目

2016  
平成28年9月26日

教育、防災、まちづくり  
ひたすらにもくもくと  
進めた

前年から本格実施されている小中一  
貫教育の拠点となる校舎が完成。町内の  
スギやカラマツをふんだんに使い、子ど  
もたちのアイ  
デアも盛り込  
んだ、真新しい  
校舎は、災害時  
の避難拠点と  
なるさまざま  
な機能も盛り  
込まれている。



平成28年11月5日  
大槌町防災訓練開催

震災後から各地区で防災訓練を行って  
きたが、津波防災の日に、1000人以  
上に参加し、震災後初の町内一斉防災訓  
練が行われた。震災で得た教訓を、次に  
生かせるよう、役場職員も庁舎から高台  
の中央公民館に実際に歩いて避難した。  
館内に災害対策本部を設置し、手順を確  
認した。

別れた人々に祈りをこめて  
あらためてこころに刻む

### 6年目

2017  
平成29年2月19日

身元不明の遺骨を安置して供養す  
るため「東日本大震災津波物故者納  
骨堂」が中央公民館駐車場内に完成。  
納骨式が行われた。



平成29年3月11日  
「生きた証 回顧録」

1284人の犠牲者全員を対象に、  
人柄や功績などを取材し、記録とし  
て残そうと2014年6月にスタ  
ートした、「生きた証プロジェクト」。そ  
れをまとめた冊子が、平成28年度版  
として配布開  
始となった。



令和元年8月5日  
『若手県大槌町東日本大震災  
記録誌 生きる証』を刊行

東日本大震災の教訓と反省を後世  
に継承し、津波による犠牲者を二度  
と出してはならないとの思いで、20  
17年から、年度版を配布していたが  
その集大成として260ページに及ぶ  
記録誌が発刊となった。被害状況や受  
けた支援、未来への思いを集めた、町  
民や支援者が主役の血の通った記録  
誌である。思  
いを新たに、  
大槌は前へ進  
んでいく。



令和元年10月31日  
公営住宅整備完了

赤浜地区に建設していた災害公営  
住宅7戸が完成し、町内に計画され  
ていた災害公営住宅全876戸の整  
備が完了した。



平成31年3月23日  
三陸鉄道リアス線が全線開通

震災で運休していたJR山田線が  
三陸鉄道に移管され、リアス線とし  
て、久慈ー大船渡間が開通。釜石ー宮  
古間55.4キロメートルが8年ぶりの  
運行となった。同区間は、経営移管と  
なり、大槌駅では町民らが盛大に一番  
列車を迎えた。



令和元年6月27日  
地場産業の活性化施設開設

商品開発に活用できる新しい施設  
おおつち地場産業活性化センターが  
オープン。第一次産業の課題解決の一  
つにと、新たな産業創出のための国の  
地方創生拠点整備事業を活用して建  
設された。1階が食品加工工場と、濾  
過機付き0.5t水槽2基を置いた、養殖  
技術や生産の開発の試験室となってい  
る。2階は貸事務室と研修室で町民  
の新たな挑戦をサポートしていく。

おおつちで生きる  
暮らしをつくる

### 8年目

2019  
平成31年3月  
「第9次大槌町総合計画」策定

2019年から10年間の町の指針  
となる「第9次大槌町総合計画」が発  
表された。町議会、町総合開発審議会  
町総合計画策定専門部会、懇談会、住  
民説明会、町民アンケートなどで意見  
を集め策定された計画である。基本  
理念の「魅力ある人を育て新しい価値  
を創造し続けるまち大槌」の実現が  
ゴールであり、一丸となって取り組ん  
でいく。



平成31年3月2日  
旧役場庁舎の解体工事が完了

慰霊のための  
地蔵を残し、  
旧役場を解体。  
防災空地とし  
て車を乗り捨  
てられる場所  
としても活用  
できる公園に。



土地のかさ上げが終了  
あたらしいまちを  
つくる

### 7年目

2018  
平成30年6月10日  
大槌町文化交流センター  
「おしゃっち」オープン

ワークショップで吸い上げた町民の  
意見も反映した交流施設が完成。町  
の中心部御社地に、図書館や多目的の  
ホール、そして震災伝承室も整備され  
ている。



平成30年11月4日  
産業まつり、8年ぶりの復活

震災以降、中断していたが復活。お  
しゃっちの駐車場に42団体が出展し  
水産・農産物をはじめとした特産品  
の販売等を行いました。

復興という希望を胸に、私たちは歩み続ける。



# おおつち 未来航路

大きな海と山に囲まれた大槌という地を、子どもからお年寄りまで快適に暮らせる場所へ。観光客が「おおつちファン」になる場所へ。未来の大槌への航路が始まります。



2011年の東日本大震災による大津波は、産業関連施設にも大きな打撃を与えました。震災後の3年間にわたり、一人当たりの町民所得は岩手県内で最下位を記録。しかし2014年からは回復に転じ、現在の一人当たりの町民所得は震災前よりも高水準になっていきます。復興事業や町内の被災事業者の事業再開などが影響して、工業や商業においても事業所数や年間商品販売額が徐々に増加し、震災前の水準に戻ってきています。

また、日本全体で課題となっている人口減少や少子高齢化は、大槌町にとっても課題となっています。大槌町の総人口は1990年代前半頃から「自然減」の状態だったことに加え、東日本

大震災津波による長期的な避難生活もあり、近年は人口が更に大きく減少しています。少子高齢化も岩手県の平均より高い比率で進んでおり、今後更にその傾向が進行することが想定されています。

震災からの復興まちづくりの方向性を示した大槌町東日本大震災津波復興計画の期間が平成30年度末で終了し、令和の新しい時代からは第9次大槌町総合計画にたすきが繋がられます。

日々変化していく社会動向を踏まえながら、大槌町では町民と行政が協働し、総合計画のもと持続可能なまちづくりに向けて着実に進むことを目指しています。

## ・大槌町のまちづくり・基本理念

### 魅力ある人を育て 新しい価値を創造し続けるまち大槌

(2019年3月「大槌町第9次総合計画」より)

## 大槌町のまちづくり・基本方針

01  
産業を振興し  
町民所得を  
向上させるまちづくり

▶ 産業振興:P12

02  
健康で  
ぬくもりのある  
まちづくり

▶ 福祉:P13

03  
学びがふるさとを育て  
ふるさとが学びを育てる  
まちづくり

▶ 学び:P14

04  
安全性と  
快適性を高める  
まちづくり

▶ 社会基盤:P15

05  
将来を見据えた  
持続可能なまちづくり

▶ 協働:P16

06  
未来につなげる  
着実な復興まちづくり

▶ 復興:P17



# 産業振興

わたしたちの  
メイドイン大槌



# 福祉

暮らす大槌、  
育てる大槌



## 産業を振興し町民所得を 向上させるまちづくり

大槌ならではの資源を生かし、観光や地域経済の活性化を図ります。再建を果たした企業や人々が生み出す特産品は、自慢のメイドイン大槌です。

### 大槌の産業を活性化

三陸の豊かな海と北上山系の山々に囲まれた自然豊かなこの町は、その自然を生かした一次産業の推進を目指しています。水産業では、「大槌町さけます孵化場」の整備を行い、町の魚に指定されているサケの稚魚を年間2000万尾生産・放流しています。

農業では、水稲から高収益を見込める園芸作物への作付け転換や町の農産物のなかでも一番の生産量を誇るピーマンの産地化を促進する「大槌町新しい園芸産地づくり支援事業」を実施しています。また、生産者の所得確保を目的として必要経費に対して補助金の交付を実施しています。水産業や農業など、従来からある町の産業に加え、養殖栽培実証などを行うことで生産量の拡大や加工品の開発を促進する「大槌地場産業活性化センター」を建設し、1次生産から3次加工までの一体的な産業の活性化を進めています。

### 新巻鮭と豊かな「食」

昔からサケ漁が盛んだった大槌は新巻鮭のルーツと言われています。その製法は、秋になり、ふるさとの海に戻ってきた鮭の中から大振りのオスを選定し内臓を処理した後、塩漬けにします。その後、丁寧に塩を洗い流し、日光や冬の寒風にさらして熟成させることで豊かな風味と旨味を引き出します。冬になると町内の魚屋はもちろん、家の軒先にも新巻鮭が吊るされる光景は冬の風物詩です。

新巻鮭のほかにも、大槌町が発祥とされる「磯ラーメン」や小麦粉を練った生地を手でちぎって入れる汁物「ひつみ」の新しいメニューの開発など、豊かな「食」が大槌にはあります。

1. 町の基幹産業である水産業。サケ・マス漁などの沿岸漁業をはじめ、ワカメ・ホタテなどの養殖漁業も盛んです。
2. 「磯ラーメン」は大槌町の発祥です。
3. 農産物の生産量1位はピーマン。産直に赤ピーマンが並ぶ時も。
4. 古くから伝わる伝統的味「新巻鮭」
5. 地場産業活性化センターでは、1次生産から3次加工までの一体的な産業の活性化を推進します。

## 健康でぬくもりのある まちづくり

子どもや高齢者など、支援を必要とする人のための取り組みを進めるほか、福祉コミュニティの確立や地域医療の充実を目指していきます。

### 地域福祉の推進

年齢や性別、心身の障がいの有無にかかわらず、個性や尊厳を認め合い、安心して生きがいを持って生活できる福祉コミュニティを目指します。障がい者が、住み慣れた地域で安心して生活し、主体的に社会参加しながら豊かで自立した暮らしを実現できる環境をつくり、住民相互の理解と支え合いを促進し、障がいの有無に関わらず全ての町民にとって暮らしやすい地域社会の実現を目指します。

また、住民や関係機関、行政などが世代や分野を超えてつながり、地域の様々な資源を活かしながら、切れ目のない支援を包括的に実施する体制の構築を進めます。町民が安心して医療サービスを受けられるように、地域医療体制の充実と救急医療体制の維持を目指しながら、生涯を通じて心身ともに健康で質の高い生活を送ることができ「健康寿命」の延伸を目標とします。また、一人ひとりが健康を自覚し、健康的な生活習慣を確立すると

ともに、地域全体で健康づくりを支援できる体制を構築します。

### 子育て環境・高齢者支援

子どもの幸せを第一に考え、子育てに関わる全ての人が安心して子育てができるよう支援する取組の充実をはかり、次代の親となる子どもたちが「ふるさと大槌で子育てしたい」と思えるような子育て環境を目指します。また、高齢者の心身の健康保持と生活の安定が確保され、家族も含め住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けていくことができる環境を目指します。

- 1,2. 子どもの幸せを考え「ふるさと大槌で子育てしたい」と思えるような子育て環境を目指します。
3. 三陸沿岸道路の開通に合わせて行われた「ヘルシーウォーク」
4. 保護者、乳幼児と学園生徒が触れ合う「思春期教室」



# 学び

過去に学び、  
未来をひらく



1



3



4



5



2

# 社会基盤

命と暮らしを  
守るために



1



2



3



4



5

学びがふるさとを育て  
ふるさとが学びを育てる  
まちづくり

東日本大震災から8年が過ぎ、震災を経験していない世代も出てきました。新たな「学び」を通して、未来を切り拓いていけるような魅力ある人材育成に取り組みます。

## 伝統と震災を忘れない

平成30年に策定した「大槌町教育大綱」において「学びがふるさとを育て、ふるさとが学びを育てる町おこつち」を理念に掲げ、「つなげる」「広げる」「ともし」「支える」の基本方針のもとに、ふるさとを愛しふるさとを形づくる教育を推進しています。

町内の小中学校（大槌学園、吉里吉里学園）において小中一貫教育、そして地域と一体となって子供たちを育むコミュニティスクールを導入することで、義務教育期間9年間を系統的、継続的に実施します。これまで地域の方の協力のもと、行ってきた郷土芸能の調査、演舞の発表会や特産品である塩蔵わかめ、新巻鮭づくりの体験を通じた伝統の継承と地域への愛着を育む特設の科目「ふるさと科」を新設し推進しています。

町内唯一の高等学校である大槌高等学校では高校の魅力化として、三陸沿岸部の復興を担いリードする人材を育成する「大

槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト」を開始し、魅力化推進員の配置や、魅力化について世代や職種を超え地域全体で考える「大槌高校魅力化構想会議」を実施しています。

## 震災の記憶と記録を後世へ

震災で亡くなられた方々のお人柄や経歴、震災時の行動などを聞き取りし記録した「生きた証回顧録」や東日本大震災津波からの復興が進む中、震災の記憶、事実などを記録した『岩手県大槌町 東日本大震災記録誌 生きる証』を発行することで、「忘れない」「伝える」「備える」をコンセプトに震災伝承の啓発に取り組みんでいます。

- 1.2,3.町内学園で実施している「ふるさと科」。新巻鮭、塩蔵わかめづくり、郷土芸能発表などを通して、学校、家庭、地域、行政が一体となった学校運営を実践します。
- 4.大槌学園で開催した、地域住民と学園での合同避難訓練。
- 5.大槌高等学校の復興研究会による防災紙芝居。震災の記憶を次世代へ伝えます。

安全性と快適性を  
高めるまちづくり

自然災害から得た教訓を基に防災・減災に取り組みます。そのため欠かせないのが、一人ひとりの防災意識の向上。新たな交通網の整備を進めながら、命と暮らしを守るまちへ。

## 地域防災力の向上

大槌町は豊富な水産資源の恵みを受ける一方で東日本大震災津波をはじめ、過去には三陸大津波（1896年、1933年）やチリ地震津波（1960年）など大きな災害に見舞われています。東日本大震災津波の体験や教訓を基に、ハード、ソフト両面から防災、減災対策を講じるとともに、地域における防災力を向上し、災害や火災等に強い安心安全なまちを目指します。

各地域において地区防災計画の整備を核とした自主防災組織の活動を支援するとともに、防災士の取得者などによる町防災サポーターや自主防災組織役員に対する研修などを実施することで、自主防災組織の活性化による地域防災力の向上を推進します。

## 新たな交通網の整備

平成31年3月には、町民の投票でデザインを決めた「三陸鉄道大槌駅」の完成と三陸鉄道での運行開始、同年（令和元年）6月には

「三陸沿岸道路 釜石北IC～大槌IC間（延長4.8km）」、9月には東日本大震災津波の浸水域を通らず、町の医療拠点を有する小釜川流域と大槌学園をはじめとする文教拠点を有する大槌川流域を結ぶ「新大槌トンネル」が、安全・安心な災害に強い「命の道」として実現しました。三陸沿岸道路の開通後にも災害時における「命の道」としての役割が期待される、主要地方道県道大槌小国線の土坂トンネルの事業化を目指し、町民と近隣市町村が一丸となって国、県等に要望する体制を構築していきます。復興に進む新しい町の形に合わせ、町民バスなど生活の足となる公共交通網の整備に取り組みます。

- 1,4.三陸鉄道開通と町民の投票でデザインが決定した新しい「大槌駅」。
- 2,3.三陸沿岸道路（釜石北IC～大槌IC）や、復興事業により住宅戸数が増加した地域（大ケ口～疋内）を結ぶ大槌橋の開通など利便性が高いインフラ整備が進んでいます。
- 5.専門家を招いて行われた自治会単位の防災研修会



# 協働

地域とともに  
課題に向き合う



# 復興

心に寄り添い  
復興へと進む



## 将来を見据えた 持続可能なまちづくり

少子高齢化や人口減少が進む大槌町。震災後の新たな地域コミュニティとともに地域の活性化や課題解決に向けて取り組んでいきます。

### 地域の課題を共に解決

東日本大震災津波からの復興事業の進展に合わせて住宅再建や災害公営住宅への入居が進むことで、各地域のコミュニティが大きく変化しました。新しい生活環境のなかで、町民同士が支え合い、助け合いながら、行政と協働で地域の活性化に取り組んでいます。また、少子高齢化・人口減少の中で、地域コミュニティや地域産業の担い手として、Uターン者の積極的な受け入れを推進しています。

### 新たな担い手の定着を目指して

また、復興まちづくりの進展や交通インフラの充実、三陸での大型イベントの開催を契機として、「おうちファン」に重点を当てた情報発信の強化や地域と移住希望者とのマッチング体制の整備、居住環境の充実支援等を一体的に展開することで、地域や産業振興の担い手となるUターン者の定着を図ります。

地域コミュニティ形成の学識者のアドバイザーや各地域にコーディネーターを配置することで、活動が困難になった自治会・町内会への活動支援や災害公営住宅等での自治組織の立ち上げ支援を行うと同時に、多様な地域づくり団体との情報共有を図る「コミュニティ協議会」を開催することで、主体的に地域の活性化や課題解決に取り組む「地域の協働性」の向上を図ります。

1,2.町内会をはじめとした関係団体が一堂に会して、地域の課題や取り組みについて協議する「コミュニティ協議会」  
3,4,5.地区での運動会、餅つき、ものづくり体験など地域コミュニティの活性化を支援しています。

## 未来につなげる 着実な復興まちづくり

東日本大震災津波復興基本計画は終了しましたが、生活再建や子ども教育センターの整備など、復興に向けた取組はいまも着実に進んでいます。

### 生活再建と復興推進

平成23年度から平成30年度までの8年間、東日本大震災津波復興基本計画を軸に復興まちづくりを進めてきました。計画期間終了後も、町の魅力を高め、生活の再建とにぎわい再生を実現するために、国、県や沿岸市町村と一体となって、切れ目のない取り組みを実施しています。

また、ここからだを支える活動環境づくりによる「将来を担う大槌人の育成」と、東日本大震災津波の記憶や教訓を生かした「文化の再生と知の継承」を推進しています。

### 復興まちづくりに向けて

東日本大震災津波復興基本計画期間終了後においても、被災した方に寄り添い、遺族に対しての弔慰金をはじめ住宅再建にかかる費用に対し補助金を交付するほか、再建した地域でのコミュニティ再建や活動支援を展開し、町民との協働による復興まちづくりを継続します。また、将来を担

う子供たちの充実した学習機会を確保するため各学園にスクールソーシャルワーカーを配置、平成30年には放課後の遊び・学習場所として「大槌町子ども教育センターOLAI(オライ)」を整備しました。  
また、東日本大震災津波の犠牲者の鎮魂と震災津波の記憶や体験と防災文化を未来永劫継承するため「鎮魂の森」や「地区別慰霊施設(慰霊碑、記念碑)」の整備を進めています。

1,4.放課後の遊び場や勉強場所として使用されている「大槌町子ども教育センターOLAI(オライ)」の開所式と学習活動の様子。  
2.大槌学園と地域が合同で防災訓練を行うことで、東日本大震災津波の教訓を生かしていきます。  
3.東日本大震災記録誌『生きる証』の作成に当たっては、町民の方々にも参加していただいて、震災前に使用する写真等を選別しました。  
5.平成30年6月に開館した大槌町文化交流センター「おしゃっち」。図書館のほか、東日本大震災津波をはじめとする、津波被害の展示室等があります。



## 行政



町長 平野 公三



副町長 澤館 和彦



教育長 沼田 義孝

### 町章



大槌町の「大」を「鎚」の中に図案化し、町の円満融和と飛躍を表したもので、昭和35年8月に制定されました。

### 町民憲章

〔昭和48年10月制定〕

- 一、自然を愛し自然を大切にしましょう
- 一、産業を興し豊かなまちをつくりましょう
- 一、健康でいきまりある生活をしましょう
- 一、香り高い郷土の文化を育てましょう
- 一、安全で住みよいまちをつくりましょう

### 大槌町民歌

〔昭和48年10月制定〕

作詞 滝田 常晴  
補作 桜田 史郎  
作編曲 押尾 司

- 1 太平洋に のぼる陽よ  
入り船出船 海の幸  
山のこだまも さわやかに  
生きるよろこび はつらつと  
大槌大槌 このまちを  
力あわせて 築こうよ
- 2 片寄せ波の 浜風に  
根を張る松の たくましさ  
進取の気魄 あふれわく  
みのるしあわせ もろともに  
大槌大槌 このまちを  
日々にいそしみ 拓こうよ
- 3 大槌小鎚 水清く  
流れにおどる 鮭の群れ  
心ゆたかな 人の和に  
夢をあつめて うるわしく  
大槌大槌 このまちの  
ゆくてたのしく 進もうよ

## 議会



議長 小松 則明



副議長 芳賀 潤



- |           |           |          |           |           |
|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 1番 菊池 忠彦  | 5番 澤山 美恵子 | 8番 阿部 俊作 | 11番 金崎 悟朗 | 14番 小松 則明 |
| 2番 白澤 良一  | 6番 阿部 三平  | 9番 東梅 康悦 | 12番 阿部 義正 |           |
| 3番 佐々木 慶一 | 7番 東梅 守   | 10番 及川 伸 | 13番 芳賀 潤  |           |



### 姉妹都市 「フォートブラッグ市」

平成17年10月15日、大槌町とアメリカ合衆国・カリフォルニア州のフォートブラッグ市は、相互の信頼と尊敬を礎とし、これまでの友好関係をさらに推進するため姉妹都市の締結を行いました。

平成9年に大槌町で開催された「第17回全国豊かな海づくり大会」にフォートブラッグ市長を招へい。平成14年から中高生のホームステイなどによる両市町の交流をスタートさせ、平成17年にはフォートブラッグ市長夫妻が大槌町を訪問し、姉妹都市締結の調印式を行いました。

町の将来を担う中高生を派遣し、お互いの生活文化や言葉に触れる機会となるこれらの交流は、子どもたちの幅広い視野を養い、姉妹都市であるアメリカ・フォートブラッグ市との友好関係をより深いものにするとともに、誇りを持って大槌の魅力や特性を世界に発信できる「グローバル」な人材の育成を図ります。



### 大槌町イメージキャラクター



おおちゃん

平成6年に誕生。大槌町のイニシャル「O」と「槌」がモチーフとなっており、洋服の青は海と空を、頭の緑は自然と安心を、頬の赤は飛躍を意味している。

### 町の木



けやき  
〔昭和48年10月制定〕

### 町の花



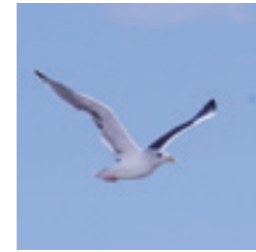
新山つつじ  
〔昭和48年10月制定〕

### 町の魚



さけ  
〔平成9年8月制定〕

### 町の鳥



かもめ  
〔昭和48年10月制定〕



# 大槌新八景

自然がつくり出した雄大な8つの風景。  
大槌町の歴史と文化にふれられます。



● 浪板海岸



● 高滝



● 鯨山



● 崎山展望・野島



● 新山高原



● 蓬萊島



● 浪板不動滝



● 城山

…このマークのある場所は三陸ジオパークのジオサイトです。



釜石広域ウィンドファーム

遠野市



大槌町産木材で出来た  
ベンチは大槌駅にも



おおちゃんがデザイン  
されたバスも走る



大槌のシンボルが入った  
マンホール

こんなところにも！  
見つけた！おおつち！



# おおつち マップ

雄大な太平洋に面した大槌のまちには、  
歴史ある古いまちです。  
美しい海岸はもちろん  
高原など自然あふれるまちで、  
先人の宝を受け継ぎながら  
新しいまちを創造していきます。

**源水川の淡水型イトヨとその生息地 [町指定 記念物]**  
大槌町の中心部にある大槌川と小籠川に挟まれた町方地区には三陸独特の地形によって生まれた自噴井がある。源水川の湧き水であり、年間を通して水温・水質が一定に保たれていることから、県内で唯一淡水型イトヨの生息地でもあった。現在、東日本大震災の津波により海よりやってきた別種のイトヨの交雑種が生まれ、生態系研究の分野では貴重な例となっている。



**みちのく潮風トレイル**  
Michinoku Coastal Trail

～大槌ルート～

東北の太平洋沿岸部を歩いて旅する道「みちのく潮風トレイル」で、大槌のユニークな自然を見つけませんか。

●1日コース  
浪板海岸～本町

浪板海岸→吉里吉里海岸  
→崎山展望台→筋山→蓬萊島→源水川→城山公園  
→3.11大槌希望の灯り





# おおつち 1889 年表



1889  
|  
2019

明治22(一八八九) 市町村制実施。小鍬村、吉里吉里村が合併し新大槌町となる

明治29(一八九六) 大津波来襲。被害戸数672戸、死亡599人(津波損害高327000円余)(明治三陸地震津波)

明治30(一八九七) 郡制実施により西南閉伊郡が上閉伊郡と改称、大槌町も郡内に含まれる

明治36(一九〇三) 吉里吉里漁業組合設立認可される

明治42(一九〇九) 大槌浦漁業組合設立認可される

明治42(一九〇九) 大槌町御社地(現町名、大町)にさけの人工孵化場が町営で設立され、大槌川、小鍬川におけるさけの人工孵化放流事業を開始

大正12(一九二三) 大槌郵便局電話交換業務開始

昭和8(一九三三) 大地震、大津波来襲。浪の高さ13尺。溺死者62人、流失倒壊戸数622戸(昭和三陸地震津波)

昭和14(一九三九) 山田線大槌釜石間工事完了し、全線開通若手県医薬連が大槌病院を開設

昭和20(一九四五) 釜石、米国海軍の艦砲射撃と空襲を受ける

大槌町も艦載機の襲撃を受ける

昭和23(一九四八) 大槌町および金沢村農業協同組合設立

昭和25(一九五〇) 大槌病院が県営に移管、県立大槌病院と改称

昭和27(一九五二) 社団法人大槌商工会創立

大槌町教育委員会発足

昭和30(一九五五) 大槌町、金沢村と合併

陸中海岸国立公園指定

昭和33(一九五八) 大槌魚市場完成



平成9(一九九七) 町の魚を「さけ」に決定

平成10(一九九八) 第17回全国豊かな海づくり大会を天皇后陛下ご臨席の下開催

平成10(一九九八) 浪板海岸が環境庁「日本の水浴場55選」に選定

平成11(一九九九) 広域消防の実施

平成11(一九九九) 大槌町公共下水道通水式

平成12(二〇〇〇) 総合研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認)

平成12(二〇〇〇) おおちゃんネットワーク稼働

平成13(二〇〇一) 飛内山国有林火災。約24ヘクタール消失

平成14(二〇〇二) アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホームステイ交流を開始

平成15(二〇〇三) 町立図書館開館

平成15(二〇〇三) 自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催

平成15(二〇〇三) 釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工

平成16(二〇〇四) 大槌港灯台点灯50周年

平成16(二〇〇四) 吉里吉里小学校新校舎落成

平成17(二〇〇五) 釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動

平成17(二〇〇五) 岩手県植樹祭開催

平成18(二〇〇六) フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印

平成18(二〇〇六) 町村合併50周年記念式典

平成19(二〇〇七) 新山展望台完成

平成19(二〇〇七) 小鍬川水門概成管理受託開始式

平成19(二〇〇七) 源水川の淡水型イトヨが天然記念物に指定される

平成23(二〇一一) 赤浜・浪板児童館閉館、金沢保育所閉所

平成23(二〇一一) 夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

平成23(二〇一一) 東日本大震災津波発生

平成24(二〇一二) 新おおつち漁協発足

平成24(二〇一二) 大槌湾でウニ漁再開

平成24(二〇一二) 「大槌ありがとうロックフェスティバル」開催

平成24(二〇一二) 旧大槌小学校の校舎を改装した町役場で業務再開

平成24(二〇一二) 安渡産大槌復興米の収穫



昭和35(一九六〇) チリ地震津波来襲

昭和42(一九六七) 円満融和と飛躍を象徴とした町章が決まる

昭和43(一九六八) 筋山道路開通

昭和46(一九七二) 国道45号古廊坂トンネル開通

昭和47(一九七三) リアス・シーニックライン開通

昭和47(一九七三) 大槌・赤浜・吉里吉里の三漁協が合併し、大槌町漁業行動組合発足

昭和48(一九七三) 国道45号全線開通

昭和50(一九七五) 町民憲章、町民歌、新大槌小唄決まる

昭和52(一九七七) 県道大槌く小国間開通

昭和56(一九八一) 大槌川鮭捕獲63049尾で本州一となる

昭和57(一九八二) 東京大学海洋研究所開所

昭和58(一九八三) 井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム

昭和59(一九八四) 観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典

昭和59(一九八四) 桜木町裏山山林火災で被害額1億3千万円

昭和62(一九八七) 吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される

平成2(一九九〇) 東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会

平成4(一九九二) 町制施行百周年記念式典

平成4(一九九二) 国道45号大槌バイパス開通

平成5(一九九三) 三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催

平成6(一九九四) 郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン

平成6(一九九四) キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定

平成9年「第17回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定

平成25(二〇一三) 新大槌小学校開校

平成26(二〇一四) 蓬萊島を町の文化財に指定

平成27(二〇一五) 「生きた証プロジェクト」第1回実行委員会開催

平成27(二〇一五) 震災後初の「新山高原まつり」

平成27(二〇一五) 吉里吉里海岸海水浴場で震災後初の海開き

平成27(二〇一五) 被災した蓬萊島の守り神「弁天様」が修復を終え帰郷

平成27(二〇一五) 震災後初のサンマ水揚げ

平成28(二〇一六) 大槌小学校、吉里吉里小学校で最後の卒業式

平成28(二〇一六) 大槌学園・吉里吉里学園小中一貫校として初めての入学式

平成28(二〇一六) 現大槌町長平野公三就任

平成29(二〇一七) 大槌消防署庁舎完成

平成29(二〇一七) 大槌小鍬線開通

平成29(二〇一七) 県道大槌小鍬線開通

平成29(二〇一七) 町立大槌学園(小中一貫校)開園

平成29(二〇一七) 安渡地区公民館・避難ホール完成

平成29(二〇一七) 町内全てのトンネルが貫通

平成30(二〇一八) 納骨堂完成

平成30(二〇一八) 大槌学園、新校舎に移ってから初めての入学式

平成30(二〇一八) 桜木町地区避難路竣工

平成30(二〇一八) 大槌駅舎デザイン決定

平成30(二〇一八) 「よ市く夏祭り」復活

平成30(二〇一八) 大槌町の「ふるさと科」の教育活動が評価され、大槌町教育委員会地域学校協働本部が文部科学大臣表彰を受賞

平成31(二〇一九) 大槌町文化交流センターおしゃっち完成

令和元(二〇一九) 東京大学大気海洋研究所完成

令和元(二〇一九) 産業まつり、8年ぶりに復活

令和元(二〇一九) 蓬萊島をモチーフにした大槌町駅舎「大槌駅観光交流施設」完成

令和元(二〇一九) 釜石山田道路 大槌ー山田南IC間開通

令和元(二〇一九) 旧庁舎解体工事終了

令和元(二〇一九) 三陸鉄道リアス線が全線開通

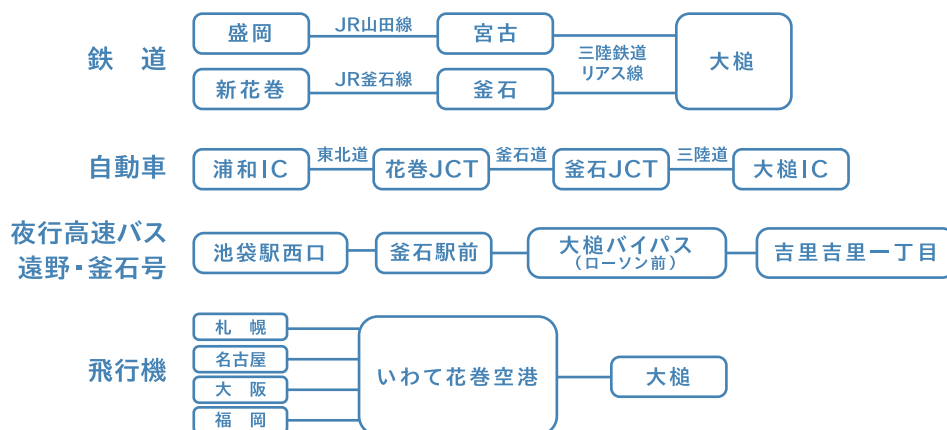
令和元(二〇一九) 町内全ての災害公営住宅完成(876戸)





## 大槌町

### 大槌町までのアクセス



**M** ムービーマーク  
のついた画像にかざすと  
ご覧いただけます。

スマートフォン／タブレット端末からiOSはApp Store、AndroidはPlayストアから「COCOAR2」を検索してインストール。COCOAR2を起動し画像にかざしてください。

デジタルブック公開中!

<http://digibook.safekeeping.jp/otsuchi-youran/>

